

枝垂（しだれ）桜

この想いを断ち切ろう
と男が決心した日
一本の桜の樹が
満開だった

樹を見あげ
かすかに揺れている
何千もの薄桃色の花びらの下に
むくわれなかった恋を埋めていいかと尋ねると
桜の樹は
一番長い指で男の左の頬をそつと撫ぜ
いいよと言った

男はむきだしの指と爪で穴を掘り
痩せた肋骨のあいだから
傷んだ心臓を
音きしませてひきずりだした

穴の底にそつと置く
黒い土がくぼみを埋めた

どこか遠くで
何も知らない想われ人が
ふと微笑み
歩き去っていく

春の雨がふり始めた
新しい墓を
寛大な樹を
虚ろな胸の男を
静かにぬらす